



ネパール・ミカノ会

平成14年夏号 NO.17 06.15発行

ネパール・ミカノ会 事務局 194-0035 町田市忠生2-5-36 こもれび堂内 tel 042-791-0602

教育はすべての生活の基礎

平成14年度出発にあたって

ネパール・ミカノ会
会長 斎藤 謹也

平成14年度が始まりました。
第6次教育支援の旅（3月3日-10日）を終えて、いい気持ちで帰国した日に机上に郵政事業庁のボランティア預金の審査部よりの連絡が来ておりました。その内容は3月15日5時頃来訪するので、事業内容、会計帳簿等を見せて欲しいとの事。早速、事務局長に連絡して、役員の方々に集合してもらう事としました。



その夕刻おいでいただいた担当官の口から、おもわぬご指摘を頂きました。結局の所、ミカノ会の教育支援は校舎というハコもの、図書というモノを贈っているにすぎないのではないかと。そういう風に、いまの 学校校舎建設支援申請の形では、ボランティア預金配分の基本からズレているように、一般の方々に思われてしまうのではないかと、担当官としては危惧しているというのです。事業開始以来5年を経て、教育を通しての住民の自立という事にウェットを置いた申請にならないと今後の分配金支援継続は、預金利息の減少のなかでは難しいのではないかと、とのお話でありました。

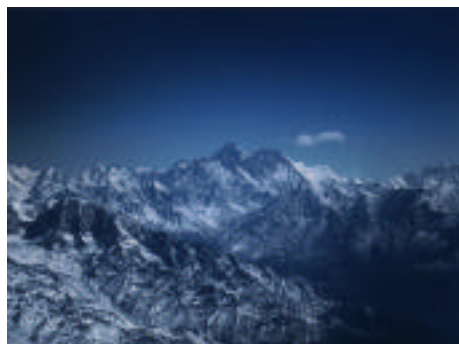
私たちの支援が、校舎完成後も継続して支援をし続けていることは、支援一覧表をみていただくだけで明らかであることや、現地の村及び学校関係者（村長、学校運営委員長、校長、教員）の我々に対する信頼の高まりなどについて、旅行中のエピソードをまじえて説明したり、その継続援助による職員室の整備（教育環境らしくなっていること）、学籍簿の整備、新設中学校（平成12年度建設）の政府への負担金（15万円）の村民自身による捻出、そして開校における教育費の村負担とその維持、女子の中学就学の現状（村人の教育にかける期待の高まり、本人の進学熱の高まり）、制服の贈呈による中学生本人の喜びの表現、やる気、そして村の婦人による制服製作や、校舎建設による村人の直接建築（賃金支払いを含む）等々。

明らかに5年前の支援開始頃の現地の様子とは違っている。トイレの自主的建築（各校）や私たちの医療品備品寄贈を契機にした保険センターの自主的建設の開始などと、実に教育支援をテコに村の自助努力が始まっている事は、旅に実際に参加したものが実感しているところです。

このように必死で説明を加えてみましたが、「でも、やはり、ルンビニ地区 学校校舎建築費申請のみが記載されるボランティア預金配布先の貴下の会の欄では誤解を受けてしまいますよ。個人的にはわかりますが。」というご指摘には抗しがたく、私共が村当局や学校関係者と共同して行っているいまの総合的な事業展開を今後はもっと前面に出し、地域関係者の自助努力を私たちがサポートし、自立を図っていくように改めるようにして申請し、誤解されないようにしなければと思っています。

ネパール雑感

副会長 坂 育夫



今年のネパール行きに参加できなかった反動か、図書館でネパール関係の本を借りたりして読みあさった。

OKバジこと恒見一雅さんの本。パタンで十年近く生活しながら絵を描く白井有紀さん。オギノ芳信氏と協力して学校を建てている坂井大岳さん。東タライで眼科医療をしている黒住格さんの本である。会長はじめ教育支援の旅行に行かれた方々の無事を祈りながら、ネパールに魅せられた我々の事を思ってみたりした。

ボランティアという活動は、いつ我々の中に定着したのだろうか？神戸の大震災の故知であろうか？小生も少しだけ参加したが、ボランティアとして、全国から集まる若者達がどれだけの満足感をもって帰郷したかは、大いに疑問である。

私が働く授産所においても、季節によってボランティアの人達と一緒に汗を流す。

そんな中で、数え切れない素敵な人との出会いを持てた。しかし一方、多くの場合ボランティアを受け入れる側の難しさを感じる。その意味ではネパールという国の自然と人柄に感心させられる。この国が日本人をすぐれたボランティアに育ててくれているからだ。雄大な自然と貧しくてもシャイで素朴なネパールの人々は、素面的な豊かさと保身に慣らされた、我々日本人の臆病な善意を、気楽に発揮させてくれるのである。

だからこそ我々は、本当に彼等の役に立つ外国人として、真剣に彼等の国の将来を見据えた援助をかんがえなければならないと思うとともに、国内での生き方についても深く考えさせられた。

ネパールの町並み

『ネパール？ネパールのどこがいいの？』

佐藤 富美子

ネパールにここまで投身している私をみて皆そう質問する。ミカの会の皆さんも少なからずこの質問に出会うのではないのでしょうか？ある人はネパールの人良さで答え、またある人はヒマラヤの山々、ヒマラヤに囲まれた大地と答えるかもしれない。もちろんネパールに惹かれ続ける理由は一つではあり得ず、結局は全部！となってしまうことも多々・・・。



私も例に洩れず、ネパールがネパールたらしめる全てに魅了されている。が、その中でもとりわけ私を引きつけるものが「建築物」なのです。私がネパールに行くと、必ず訪れる場所がある。パタンの「旧王宮」です。

パタンはカトマンドゥの南、聖バグマティ川をはさんだ川向にある。中世、カトマンドゥ盆地にマッラの3王国（カトマンドゥ・パタン・バクタプル）があった時代に都として栄え、今でもネワールの人々が町に暮らし、ネワール文化が息づいている古都として名高い。



王宮、つまり国王の住居は普通（日本を含めてヨーロッパ各国）権力と富を誇示するように広い庭園と長いアプローチを兼ね備えている。ところがネパールの旧王宮はその入り口が市民の生活の場、道路

や広場に面してポツリと立ち、人々が毎日行き交う寺院の入り口と目の高さが変わらぬほど、さしては家の入り口と区別がつかぬほど「そこ」にある。

カトマンドゥ盆地の王宮は「口」の字型の建物が多く、この中庭を持つ建物をチョクと言うそうだ。

それぞれのチョクには「役割」があり、王宮はこのチョクの集合体でできている。パタンの旧王宮も大きく3つのチョクがある。

一つ目はスダリ・チョク。中庭には沐浴のための水場がありかつて王が沐浴していたという住居の役割を持つ。二つ目はムル・チョクという祭事や王位継承のための儀式などをとり行っていた。隣には王家の守り神であるタレジュを祭るタレジュ寺院があり、ダサインの祭りの時などはここで水牛や山羊などが生け贄にされるという。三つ目はマニ・ケジャブ・ナラヤン・チョク（長い！）という現在パタン博物館として一般公開されている建物だ。

ここはガイドブックなどには写真付きで紹介されているが、とにかく窓の木枠の装飾が美しい。四つの辺全てを少し張り出した木枠の窓が囲っていて、張り出した部分の椅子にもたれて窓の外を眺めれば、直ぐ下には市民の生活が見える。土産物を売る人、ゴム草履を履いて走り回る子供の声、子供を呼ぶ母親の声、車のクラクション。

時代こそ違いますが中世の王様の生活のほんの一部が重なったようでとても不思議な気持ちになる。そしてまたネパールを好きになる・・・。

ところで、このマニ・ケジャブ・ナラヤン・チョクがオーストリアによって改修されていることをご存じでしょうか？同じく中庭側にもバルコニーが4つの辺をぐるりと囲んでいて、木造の柱と梁で上の煉瓦壁を支えている部分に鉄筋の柱が使用されている。（描写下手をお許ください）

ネパールにはそのほか歴史的建造物が数多くあり、しかもそこは現在も人々が生活する場であるため、老朽化した建物の保存、改修は目に見えて難しい。

現在も歴史的環境に人々が集い、生活していることがこのパタンの魅力であるならばその都市遺跡を保存、次世代に継承していくことは外国からの支援だけでは不可能と言える。主な寺院を改修しただけでは都市遺跡、パタンはパタンではなくなってしまうと思うのです。

日本は現在ありとあらゆるところに高層住宅が建設され、しかも住宅メーカーによって模倣する国が様々で、あるところはイタリア風、またあるところはアメリカ風と町並みはバラバラだ。いつかネパールも・・・と考えると・・・。

そんなことを考えているとまたあの喧噪が背後に迫ってきて思わず空の向こうを見つめている。

参考文献

・ WANDERING KATHMANDU （カトマンドウの都市ガイド）

宮脇壇著 出版元：エクスマレッジ

・ アジア読本ネパール 「歴史的環境の再生」より

渡辺勝彦著 出版元：河出書房新社



国際ボランティア貯金の実情

事務局長 大谷 安宏

支援の旅から帰国した翌日、斎藤会長から3月15日郵政事業庁による当会事務所の監査連絡が入った。監査内容は今年度会計帳簿と活動状況の資料が対象である。会の活動内容や会計上に何ら疾しいところはないが、来年度のボランティア貯金給付

申請期日が3月29日と迫っているこの時期になぜという疑問を感じた。来年予定されている郵政事業の民営化に備え、形だけの監査の実績づくりかとも疑いたくもなる。

会計資料、活動状況資料など揃えて会長、会計、事務局で対応したが結論として現行の低金利による配分総額の減少に伴い、配分金交付はより一層厳しいものになることが予想されるとのことで、国際ボランティア貯金の本来の主旨である援助先の自立に直接的に繋がる専門家等の派遣による支援事業を優先させていきたいとのことである。

確かに金利低下の影響は非常に大きく、過去最高の配分金額は平成7年度の利率3%、配分金額28億1075万円、配分団体235であったが、平成13年度は0.02%、配分金額6億6646万円、172団体への配分と激減している実情からも理解はできる。当会の支援内容が校舎の建設支援事業、すなわち箱物の支援は直接的自立の支援として理解されにくいようであり、一般に良く聞く、「やりっぱなし、建てっぱなし」の支援として見られがちなのであろうか。

これに対しミカの会の教育に対する総合的な支援事業の考え方や自己資金による建設後のフォロー、上級校の建設、地域の教育に対する意識の高まりを説き、教育が長期的に見て自立のベースであり、この地域は先ずは校舎の補給であることを会長をはじめ出席者で力説、一往の理解を得たものと考えている。しかしながら単なる物品の供与、資金の提供は給付金の対象にならない現行の制度からは総体的な評価と見なされにくく、来年度の給付を受けるのはかなり厳しいものがある様に思える。

監査以後役員会にて人材を派遣する支援事業についても協議したが、あまりにも日程的余裕もなく今回の申請は見送ることとし、次年度候補校スンディー小学校の建設支援に絞り、皆さん方の協力を得て期日ギリギリに町田郵便局に申請手続きを完了した。

現地を訪れた我々に真剣な表情で実情を訴える校長の思いや屋根なしの崩れ落ちたレンガの囲いの中で授業を受ける子どもたちの実情を少しでも改善してあげたく、給付金が今年も受けられるよう期待するとともに、受けられない場合自己資金の枠内で

2～3年計画での建設支援も考えていく時期にきているようだ。

ミカの会の'97年創立以来の教育支援実績を一覧表にしました。「継続は力なり」今後とも支援活動の継続ため、資金集めのアイデアの積極的な提案を期待します。



教育支援活動報告写真展を木曾西郵便局で開催!!



当ネパール・ミカの会は'96年よりネパールの教育支援活動を始めましたが、'98年より郵政省（現 総務省・郵政事業庁）の「国際ボランティア貯金」の給付金を受け、'01年までの4年間に小学校・中学校など7校に、21教室6職員室を寄贈することが出来ました。

このような支援活動が出来るのは、会員の皆さんのボランティア活動もさることながら、会の趣旨に賛同されて援助をして頂いている方々や、ボランティア貯金に協力されている郵便預金者の善意の結果でもあります。

これらの支援活動を知ってもらうべく、バザーなどの機会にできるだけの写真展示をしてきましたが、5月18日の例会で議題として郵便局や四つ葉会での展示を提議されたこともあり、会員でもある木曾西郵便局甲田局長にご相談したところ、下記の4週間にわたり当郵便局で再び展示をしていただくことに快諾を得ましたのでお知らせします。

展示期間が1ヶ月近くありますので、誘い合わせのうえ是非ご覧ください。

会 期：6月10日 月 ~ 7月5日 金
（但し、郵便局の営業日、営業時間内となります。）

会 場：町田木曾西郵便局 ロビー
町田市木曾町2214-2 TEL・791-2722

（バス「忠生公園入口」下車徒歩約5分）

6次支援の旅とラマ氏来日

大谷 安宏

マオイストによる政情不安と王室事件の後遺症を気にしながらの第6次の教育支援の旅は、3/3~10日に会長ら9名により、新たな成果の確認と親交を深める旅となった。国際ボランティア貯金の給付を受けての校舎建設支援は、50年来の村人悲願のシリ・アディアリ小学校に3教室1職員室が、小中高10年制のシリ・ハジ・ヤナトゥラハ・ハイスクールには4教室1職員室が完成し、従来にない盛大な落成贈呈式が執り行われた。

次年度建設支援候補校シリ・スンディー小学校の視察をはじめ、既支援各校への訪問も短時間であったが果たすことができた。昨年春完成し、開校準備金の不足により

開校が遅れていた、シリ・マズワニ中学校も地域の人々の努力で昨年9月に49名（女子20名）の生徒と3人の教師で半年遅れでスタートした。生徒全員に会で寄贈したオーダーメイドのブルーの上着と紺のズボン・スカートに緊張気味な誇らしげな顔が印象的であった。

タンセン地区図書支援贈呈式はトリヴァン大学文系校講堂に各校代表が集い合同で行われ、この式典の様子はラジオでネパール全土放送されたという。トリヴァン大学理系校にはリコー光学の寄附金をもとにパソコン一式、シリナガル・サイエンス校には計測器など、また、女子職業訓練校へ会長個人での足踏みミシン、ストリート・チルドレン施設への支援、モホン女子校との交流、今日のために再度展示された「今村写真展」の見学、新規訪問校の視察など実に忙しい。

各校合同でセッティングしてくれた歓迎夕食会への招待、トリヴァン大学々長の子息の結婚式への招待など今までにない親交の深まりに、塩屋の店にも立ち寄れず、ダンの親爺の居酒屋でもビールも飲めぬほどの慌しいタンセンであったが、ホテル前の丘からはダウラギリ、アンナプルナ、遙かマナスルの峰々が望め、この街の素晴らしさを改めて感じさせられた。

カトマンドゥ・パドゥマ・カニヤ女子校では各教室を巡り、四つ葉会からの手作り



の袋を土産に、初めて生徒達との交流は、歌や踊りの飛び出すほほ笑ましい交歓会となった。

今回の旅は、忙しさのなかにも“ゆとり”を持つよう企画した。目玉は「チャーター機によるマウンテンフライト&バイラワ」と「ナガルコット最高級ホテル！ホテル・ヒマラヤに泊まる」とした。ブッダエアーの新鋭機 Beece 1900D はエベレストからダウラギリまで純白に輝く神々の御座を東から西へと飛び、懐かしいバイラワ空港への感動と驚嘆のフ

ライトを楽しんだ。ゴージャスなホテル・ヒマラヤのベランダからの満天の星空、生演奏にネパールダンスを踊り出す会員など、すっかり一週間の疲れを癒し、エンジョイした。

支援の旅は毎回忙しく、慌しい。今回の余裕を持たせた旅程スケジュールも思わぬ飛込みやら、予期せぬ歓迎や交流に時間が延長され慌しくなるが、これもこれまでの地道で誠実な支援がなせる成果であり、積み上げてきた実績と地元の親交の深まりに、改めてラマ氏の日頃の緻密で対応力のある活動に深く感謝の気持ちとともに充実感に満ちた旅であった。

帰国間もなく、ラマ氏からの来日の招聘状送付依頼に今村副会長を身元引受人にお願いした。

今回の来日はシンガポール在住でラマ僧のお兄さんと日本で落合うことが主目的のプライベートの旅であり、スケジュールも決めにくかったが、折角の機会を活かしての打合せやら、日頃のご苦勞にお礼の気持ちを込めた、多くの会員により御世話することができた。

チョニー兄さんも招いての“こもれび堂”での和やかな歓迎会。例会では「弟がいつも大変世話になり、国への支援に日頃感謝している」との兄さんの挨拶。臨時役員会においては学校建設支援の今後のあり方やルンビニ地区教員研修、移動図書館などの有意義な話し合いを持つことが出来た。

大仏を見たいと言うチョニーさんに有志による古刹めぐりと精進料理の鎌倉観光ツアー。男性有志による温泉好きなラマさんとの箱根への露天風呂と海鮮料理の1泊旅行は、生憎の雨天が幸いして、霧に包まれた若葉の山々に賞賛しきり、美術館で日本美を堪能するなど、ラマさんもすっかり日本人になりきって、売店のおばちゃんにはネパール人とは信じて貰えない有様。在京中はこもれび堂を定宿としていたが、会員宅にも何日か宿泊されて日本の家庭料理や団欒を楽しんだり、新宿、横浜の知人を訪ね、チョニーさんの成田出向え見送り。京都で挙式の志保さんの結婚式に参列したあと、大分の知人を訪れ、USJを楽しむなど日本の文化、伝統と新しい出会いにタップリと触れられた22日間の旅でした。

ラマさんの礼状メール-----会員の皆さんへ

今回の日本滞在は些か忙しかったです。皆さんのお宅に泊めて頂き、御世話になった上に、観光までご案内頂いて感謝しています。会の皆さんと兄ともどもゆっくり食事しながら、お話出来たのもすごく嬉しかったです。ミカの会の皆さんのネパールへの支援についての真剣な話し合いを聞き、より一層頑張る気持ちです。今後ともよろしくお願ひします。

いろいろ御世話になりました。誠にありがとうございました。

ナマステ&よろしく Nurbu Lama

駐日ネパール大使館が主催でネパール写真展の作品を募集しています

ネパール大使館主催の第一回目の写真展です。自慢の作品を出品してみませんか!!

応募作品のテーマ

「ヒマラヤの大自然、山麓の村々、多様な民族と暮らし、宗教と行事、街並と人々等ネパールで心に触れた事象」

応募方法

一人5点まで。5年以内に撮影された未発表の作品。デジタル写真、合成写真は不可。

イ) スライドフィルムは原版にて監修 原版を送付の事。デューブは不可

ロ) ネガフィルムの場合 2Lサイズにプリントとした写真で監修(原版を送付)

応募資格 プロ、アマを問わず。

応募受付・締め切り 平成14年5月より受付。8月31日締切

審査、展示、表彰などの詳細はミカの会事務局又は、青沼宛お問い合わせください。尚、詳細はネパール大使館<http://www.nepal.co.jp/embassy.html>にアクセスで見れます。

第6回ネパール・ミカの会定期総会

日時 7月20日(土)・午後5時30分より
場所 町田市民フォーラム・4F学習室

総会終了後、懇親会を予定しておりますので奮ってご参加ください。

事務局・会計からのお知らせ

決算後、今年度初の事業になるはずだった「町田さくらまつり」が突然中止になり、出鼻をくじかれた様で、いささかとまどいもありますが、気を取り直して4月13日(土)に矢部で行われたワン・ワールド祭から又、新たな活動が開始されました。これまで町田で唯一ボランティア預金の配分金を頂けたNGOとして、小さな団体ではありますが内容的には他の大きなNGOにも引けを取らない程、教育支援、保健m医療支援活動が充実してきたと自負心も芽生えたところです。

しかしながら、今年度はそのボランティア預金配分金も状況的に大変厳しいものがあるようで、自助努力で資金稼ぎをする方法を考えて行かなければならない時期に来ているようです。

会員の皆様と共に良い方法を模索して行きたいと思えます。ご協力宜しくお願い致します。

バザー報告:

「ワン・ワールド さがみはら」

日時 4月13日(土)

場所 相模原市立青少年学習センター

バザー売上(民芸品他) 21,578円

会員外で支援金、募金を頂いた方のお名前(14年1月-3月まで) 敬称略

橋本(相模原)広瀬雅子 吉野房枝 桜美林幼稚園 四ツ葉会

国際ソロプチミスト町田-さつき 職業能力開発大学学祭委員会

会員外で品物を寄付頂いた方のお名前(14年1月-3月まで) 敬称略

斎藤 聖子 山田 満智子 林 美穂子 根本 紗恵子 東工 コーセン

田辺 敬子 本の学校 沼野 なお美 フランス

会員の皆様からも多数の支援金やお品物を頂戴しておりますがお名前は省略させていただきます。有り難うございました。

会計 青沼・松浦

【編集後記】

2002年ネパール教育支援の旅の紀行記「夢の記」が完成しました。続いて会報、予定より遅れてしまいました。さくらまつりが中止、経済状況は相変わらず低迷、そんな時代だからこそボランティアの重要性も改めて評価されます。NPO取得の準備も進んでいます。

ミカの会は組織的にも、事業展開の面でも新しい局面に進まざるをえません。会員の皆様の英知と情熱で今以上に胸をはって活動出きるミカの会を目指そうではありませんか。

会報製作もメールの普及で大分楽になりつつあります。費用の削減と早い情報伝達的手段として電子メールの100%普及を期待します。

s.kato